

すまいる通信

Vol. 12

2022(令和4)年3月発行

障がい児者福祉施設協議会 広報紙



今号の 主な内容

「共同受注の可能性
郡山市共同受注ネットワークの取組」(二ページ)
「オリンピック・パラリンピック」(三ページ)

「障がい者施設製品
「ブランド99」の取組」(四ページ)
「コロナ禍たつて
楽しみたい！」(余暇活動)」(六ページ)



「Sさんのコメント」(写真右側)
Sさんに写真を見てもらい「選ばれましたよ。」と伝えると、にっこり笑顔になりました。
「野木職員のこのコメント」(写真左側)
選ばれて驚いています。これからも利用者の皆さんが、楽しく元気にすごして頂けるよう支援していきます。

喜びのコメント

〈写真について〉

普段の昼休みの風景です。大好きな職員とスキャンシップを図っているほほえましい一枚です。

〈表紙の写真〉

「日常の一幕…」

社会福祉法人育成会 いわき光成園

支援員 矢田 倫子さん

表紙の写真を「すまいる通信」のタイトルにちなみ、会員施設・事業所の皆様から笑顔の写真で大募集！応募作品の中から選ばれたのは、「社会福祉法人育成会 いわき光成園 矢田さん」の作品です。

また、惜しくも大賞は逃したけれど、寄せられたステキな笑顔の写真も紹介します。

共同受注の可能性 郡山市共同受注ネットワークの取組

NPO法人みんなのまち
障害福祉サービス事業所ゆめのまち

新貝 しんがい
典央 のりお

令和三年八月下旬、郡山市自立支援協議会就労支援部会の共同受注グループが中心となり、郡山市内の障害福祉事業所・作業所十一カ所で、敬老の日の贈呈品の封入作業を行いました。

郡山市では毎年窓口でお渡ししていた敬老の日の贈呈品を新型コロナウイルス対策ということで、昨年から封書で発送することになり、約四万二千通の封入作業を分担して共同受注できないかというのが事の発端でした。

昨年は郡山市内の五事業所が個別に受注して作業を行い、封入作業を間に合わせる事ができましたが、封書の管理の問題や個人情報確認作業という工程も入り、作業所以外の負担が増えてしまったことが課題として残りました。

そこで郡山市自立支援協議会就労支援部会の共同受注グループ（郡山市共同受注ネットワーク）を立ち上げ、課題を協議することとしました。

反省を活かし、約四万二千通という封入作業に「五つの事業所だけではなくもっと多くの事業所に参加してもらったら良いのではないか」「納品してもらおう日程や場所をどうするか」「分担して確認作業もできるのではないか」と様々な課題の洗い出しと対策を何度も協議しました。日程調整や工程表の資料も作成し準備



サポート事業所が材料の搬出業務を手伝いました

を整え、市内の事業所に参加募集をしたところ、二十カ所以上の応募がありました。さらに選考を行い、七月下旬に説明会を開催し、八月からの作業開始に結びつけました。ここから郡山市の共同受注作業が本格的に動き始めました。

昨年封入作業を行ってもらった五カ所の事業所を中心に後方支援を行うサポート事業所を設置し、作業工程やミスしやすい点を事前に説明し、よりやり易くしました。

また材料・資材の振り分け、納品日程の調整や検品作業など封入作業以外の部分にも工賃を発生させる仕組みを行いました。

封入作業は各作業所が工夫しながら確実にできる数量を行ってまいりました。ある事業所では手袋や帽子を被って衛生面に気を配りながら綺麗に仕上げることを目的として取り組んでもらったり、別な事業所ではケースに入れる順番を工夫して、ミスを無くすことを目的に作業に取り組んでくれたり、それぞれの事業所がただ作業を行うだけではなく、付加価値をつける努力をしてくれました。

体育館を三日間借りて、封入したものを一カ所に集め、検品作業を行いました。サポート事業所から利用者さん、職員含め二十名で検品作業を行い、番号順に並べているか、封緘ができていないかの確認を一斉に行い、無事発送するまでの作業を行いました。昨年に比べて、サポート事業所が増えたおかげで、無事日程通り終わることができました。

郡山市緑豊園の封入作業風景です



事業所の垣根を越えての体育館での検品作業

今回の共同受注作業では①大口の作業を作業所間で協力して完遂できたこと、②自分たちの作業所以外の方々と関わりを持ちながら、短期間とはいえ同じ目的を持って作業することがとても新鮮であり、職員が思う以上に利用者さんが楽しんで作業ができたこと、③共同受注のシステムを今後、様々な作業所が参画しながら拡大させ、作業の紹介や斡旋、作業技術向上の研修や技能講習、作業以外の交流の拠点としての活用など共同受注システムをさらに拡充し、アップデートしていけると感じました。

今後、郡山市からの作業は行福連携として続いていきながら、民間企業の作業も受け入れていきたいと思えます。共同受注システムは郡山市共同受注ネットワークとして立ち上がりました。最大の目的は「利用者さんの工賃向上」と「新たに繋がっていくこと」にあります。やつと産声を上げたこの活動がやがて、郡山市から全国へ発信できるように磨き上げていきたいと思えます。

オリンピックピック・パラリンピック

「けやきオリンピック 2021」が開催されました。聖火ランナーが快走し幕開け。各棟対抗で競技を行い、どの種目も一人ひとりのパワーを最大限に発揮できるよう工夫を凝らし、ベストを尽くしました。頑張りには、金メダルを授与し勝利の笑顔が見られました。

(福島県けやき荘)



新競技？
初の金メダルは
誰の手に!?



よーいスタート!
審判員の目が
光っています!!

施設内で実施した「夏まつり」において、出店の中に「KOYO (光洋) 2021 オリンピック会場」を設け、「金魚すくい競技(?)」を行いました。参加者には、金・銀・銅メダルと副賞のジュースが授与されました。

(光洋愛成園)

手作りトーチを
持った
聖火ランナーの
登場!



フライングディスクに挑戦!
よ〜く狙って狙って!

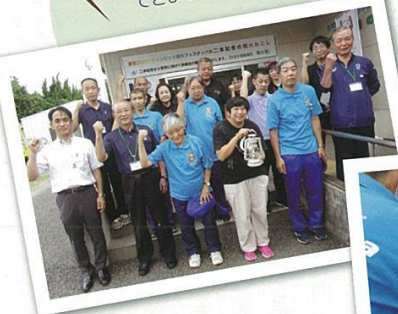
太陽光を利用したパラリンピック聖火の種火起こしは、みんなと協力して頑張つて無事成功し、初めての経験でとても緊張しました。一生に一度の経験をさせていただき、これも障害者全国スポーツ大会に参加させていただいたことが、今回の貴重な体験につながったのだと思います。みなさまには大変感謝しています。

(菊の里・菊の里工房はつち)

がんばれ!
燃えてくれ!



二本松の種火
できました



そつとだよ
そつと



僕のも
作品の一部です



皆で咲かせたひまわり

ハンドスタンプアートプロジェクトに参加しました。自分達のハンドスタンプを使った作品が、東京オリンピック・パラリンピックの会場に飾られるかもしれない! 滅多にない記念にとハンドスタンプを取りました。中々同じ活動に参加することの難しい障がいを持った方も、自分で好きな色を選びながら一緒に行うことが出来ました。

(福島県かしわ荘)

障がい者施設製品『ブランド9(que)』の取組

福島県授産事業振興会

福島県の障がい者施設製品は、平成二十七年度に東京インターナショナルギフトショーへ会津木綿製品を出展したことを契機に会津木綿を使用した製品づくりをすることとなり、日本セルプセンターと共に「ブランド9(que)」を立ち上げ、現在の製品の形を作ることができました。

立ち上げ時には、県内で縫製をメインにしている障がい者施設を募り六事業所でスタートし、当初の製品はトートバッグ、カードケース、ハンカチの三種類から始めました。

「ブランド9(que)」の製作にあたり、日本セルプセンターの協力を得て、共通した製品を作るために研修会等を重ねてまいりましたが、施設によつては製品の製作に向き不向きがあり捉え方の違いで採寸や縫い方で失敗をし、失敗から多くのことを学び、失敗事例を共有することで施設の製品のクオリティも上がってきました。

参加事業所の技術向上に伴い「ブランド9(que)」の新製品の提案があり、内容を審査



que製品

して新たにヘアゴム、ブローチ、A4バッグをラインナップに加え、現在に至っております。

また、「ブランド9(que)」以外でも参加事業所で会津木綿を使用した独自製品を製作するようになり、販売会でも好評をいただき徐々に販売数も伸びるようになってきました。

製作した製品を世に出すため、継続して東京インターナショナルギフトショーに出展し、多くのバイヤー様に見ていただき、縁があつて首都圏における百貨店等での販売会でも実績を重ねてまいりました。

また、福島県内の企業の製品を集めた特選カタログに応募し掲載していただくなど積極的に出展し、知名度が高まるにつれ製作する施設の数が足りず二施設を追加し、新たな製品づくりにも参加事業所からアンケートを取り、数製品を開発すべき取組を始めております。

ECサイトを利用した電子商取引による製品の販売にも取り組み、現在、一サイトに掲載し販売しておりますが、関係の皆様のお力をお借りして、新たに当会のサイトを立ち上げる計画をしております。

福島県の伝統ある会津木綿を使用した製品づくりは、地域共生の観点からも今後は福島県下の障がい者施設における自主製品の中心的な存在となっていければよいのではと思っております。しかしながら、限られた障がい者施設で製作していく

ことは全体の広がり考えた場合、注文等の対応に難しい点もあります。

また、縫製品に限らず横展開が可能な新たな製品づくりも視野に入れ、障がい者施設の利用者さんの工賃向上に取り組んでいけるよう福島県、当会、障がい者施設が一体となった展開が求められており、更なる発展を願いつつ今後の活動に頑張つてまいります。



わーくる矢吹製作者

東京インターナショナルギフトショー



笑顔の写真ありがとう

今号でも「すまいる通信」の「すまいる」にちなみ、会員施設の皆様から写真を大募集しました。選考を行った広報委員会でも意見が分かれるなど力作が勢ぞろい。惜しくも表紙は逃したけれど、寄せられた写真の中から素敵な笑顔を紹介いたします。ご応募いただいた皆様、本当にありがとうございます。



お花見 満開の桜の下で満開の笑顔!



ハロウィン アマビエに扮した施設長に笑いが止まらない。



祝80歳(傘寿)! これからもまだまだ元気であるぞ。



鬼退治。今年も良いことあるかなあ。



わたあめ最高!



はまぎくシアター上映中 チケットも持って、いざ上映!



秋の味覚を手のひらに



おら〜、とったど〜!!



サクサク エガオサク



ほろっ! とれたよ



ひさしぶりの旅で最高の笑顔



Happy Halloween!



カニグラタン美味しいよ、「観桜会会食にて!」



笑顔の実



サンダル拾っちゃった(笑)



めちゃくちゃ気持ちいいよ〜



さつまも収穫(∩^∩)



ハロウィーンで変身!!



#Let's ミニ旅行♡



うめえ~(^o^)/東北の美味しいものを食べようの会



うぶぶ



I LOVE ちゃんめん♡



私かわいいでしょ!



ちよこっとパフェ、召し上がれ〜



観光地あるある

コロナ禍だって 楽しみたい!(余暇活動)

当事業所の行事は、利用者自治会でやってみたいことを話し合いで決めていきます。今年は、夏祭り、ハロウィン、映画鑑賞、テイクアウト等を行いました。みんなで準備し楽しいひと時を過ごしました。

(地域生活サポートセンターエル白河)



はい、映画をみたいです!

上手に出来たでしょ!

コロナ禍においても園内で利用者が楽しめるイベントを通年行事以外にも企画しようと、今年は「夏まつり」を行いました。



いつもと違う食堂で楽しい!



うーん、冷たくておいしい!

月に一度、「手作りおやつ」も行っています。今年は「フラベチーノ」「あんこサンドとジャムサンド」「パフェ」「ところてん」「噴水サイダーのフルーツポンチ」「シャリーチエ」など魅力的なメニューを作りました。



かんせい! みんなびっくりするかな?

おいしくなあれ

また、コロナ前には、近隣の施設さんが、月に二回来園し、おやつのお店販売をやっていました。コロナ禍で実施できなくなりました。利用者の皆さんが楽しみにしていた「売店」を続けるために、事務職員にも手伝って頂き、職員がお菓子や飲み物を準備し、二週に一度の楽しい時間を同



早く食べたいけど、順番だよ!

じょうに過ごせるよう実施しています。

(あだたら育成園)



やっぱりスナック菓子はやめられない!

どれにすればいいのか。あれも買いたいな~



ファーストフードやお弁当屋さんなど、テイクアウトができるお店のメニューの中から利用者さんに食べたいものを選んでもらい、職員が取りまとめて買い物をしました。

おなかいっぱい食べるぞ。



レーンを通れるたくさんのお寿司に目移りしそうです。

コロナ禍で外食ができないなか、給食委託業者の協力を得て回転寿司のイベントを開催しました。食堂に大きな回転寿司のレーンを設置。レーンの上をマグロ、サーモン、エビのにぎり寿司、稲荷寿司やのり巻きが流れました。(南東北さくら館)

すまいる通信を拝読させて頂き、コロナの中、様々な創意工夫をされながら、利用者支援に当たられていること誠に敬服いたします。マクベスの「明け

ない夜はない」の言葉ではありませんが、あの時のコロナは酷かったなど、皆さんと笑って話せる日が来ることを信じ今はコロナに負けずに頑張ってください。

会員の皆様方のご支援を賜り、三周年会長職を務めることができました。誠に感謝申し上げます。皆様方の益々の活躍をご祈念申し上げ退任の挨拶とさせて頂きます。

会長 市川 謙介
(ふくしの家施設長)

